

資料提供
広報取材依頼

情報提供日	令和6年3月5日
問い合わせ先	大田市教育部石見銀山課 (担当 伊藤美保)
	TEL0854-83-8130 (直通)

「ふる里の民謡第64集」への「石見銀山捲上げ節」採用の報告会

1. 行事名	ふる里の民謡第64集への「石見銀山捲き上げ節」採用の報告会
2. 目的	島根県立短期大学と島根県フォークダンス連盟が記録・保存に取り組み、昨年10月に大田市へパンフレットおよびDVDが寄贈された民謡「石見銀山捲上げ節」が、(公社)日本フォークダンス連盟の「令和6年度全国普及曲」に決定し、「ふる里の民謡 第64集」に採用されることの報告。
3. 開催(実施)期間	令和6年3月11日(月)
4. 開催(実施)時間	16:00~17:00
5. 開催(実施)場所	大田市役所 応接室
6. 出席者	島根県フォークダンス連盟 出構弘美 会長 島根県立短期大学短期大学部 短期大学部長 梶谷朱美 教授
7. 後援	
8. 参加・入場者数	10名程度
9. 行事の内容	(全体の概要、特徴的なものなど) 「石見銀山捲上げ節」は、石見銀山で採掘に従事した女性たちの労働歌を基にした民謡。昭和42年(1967)に(公社)日本フォークダンス連盟の「ふるさとの民謡」に島根県で初めて認定されたが、近年は伝承が途絶える危機に直面していた。 島根県立短期大学部長 梶谷教授と島根県フォークダンス連盟 出構会長らは、「捲上げ節」を記録保存し後世へ伝承するため、令和5年7月に地元有志と踊りを収録し、パンフレット・DVDを製作。これらは大田市へ寄贈され、特にパンフレットは市内全戸へ配布した。 これらの活動が評価され、(公社)日本フォークダンス連盟 日本民謡委員会における審議の結果、「捲上げ節」が「令和6年度全国普及曲」「ふるさとの民謡 第64集」に採用された。「ふるさとの民謡」への採用は57年ぶり2回目となるが、2回目の採用は極めて稀。 今後は、6月に新潟県で開催される第64回全国日本民謡講習会での「捲上げ節」の講習や、キングレコードからCD、DVDの全国販売などが行われる。
10. 特記事項	—
11. その他	添付資料あり

石見銀山捲上げ節

伝承地

島根県大田市大森町

せんのーやまかーらーよー
 たにそこまーれぼーよ
 まいたまーたー(ア)いたーのアラヨイシヨア
 こえかーするよアスツチヨイスツチヨイ

一、仙の山からヨー 谷底見ればヨー
 捲いたアターア 捲いたのー
 アラヨイシヨアー 声亦するヨー
 アー スツチヨイ スツチヨイ

二、三五番のヨー 燈元の水はヨー
 大岡アターア 様でもアラヨイシヨ
 アー 轆きやせぬヨー
 アー スツチヨイ スツチヨイ

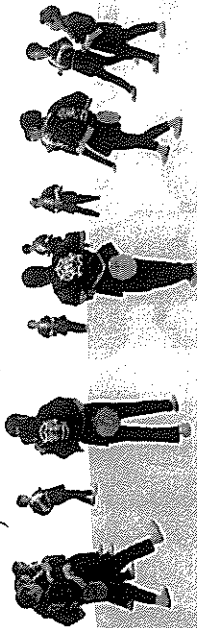
三、大岡様でもヨー 轆けぬ水をヨー
 水車 アターア ポンプデー
 アラヨイシヨアー 皆さばくヨー
 アー スツチヨイ スツチヨイ

四、捲けば本番ヨー 捲かなきや先役ヨー
 捲けばアターア女のー アラヨイシヨ
 アー 身がたぬヨー
 アー スツチヨイ スツチヨイ

五、捲いた捲いた捲いたヨー
 捲けぞが捲いたヨー 捲けぞアターア
 捲かなきやー アラヨイシヨ
 アー 領だけヨー
 アー スツチヨイ スツチヨイ

参考文献

- ・島根県教育委員会発行「昭和六十二年三月」
- ・島根県の伝統 民間伝承公刊集報告書「百二十」マーク
- ・公益財団法人イワギンザンス逸聞集による甲の民謡IV



監督・実行者 梶谷 茂夫(島根県立大宇部短期大宇部) 島根県フォークダンス連盟(会長:田嶋弘美)

動画撮影・編集者 奥野 愛子 大相澤子

ナレーション・語り の解説 梶谷 茂夫(島根県立大宇部短期大宇部) 多久和 淑子

石見銀山捲上げ節 動画収録出演者 (順不同・年齢順)

音楽・唄

三協力がたのめた関係機関

大田市教育委員会、石見銀山資料館、大田市大森町町並み文化交流センター、島根県大田市総合体育館組合、公益財団法人島根県観光連盟(写真提供) 島根県民会館、島根県大田市短期大学、イワギンザンセンター、石見銀山まきあげ節実行委員会



来・へ・つ・な・げ・よ・う!

島根県大田市大森町

石見銀山捲上げ節

iwami ginzan makiagebushi



石見銀山捲上げ節の記録・保存に向けて

戦国時代から銀が採掘されていた「石見銀山」は、昭和18年(1943)の大洪水により閉山し、400年の幕を閉じます。

その後、石見銀山は昭和44年(1969)4月に国の史跡指定を受けます。その際に由緒ある坑内唄を記録とともに後世に残すために唄りの振付が新たに考案されました。それが、「石見銀山捲上げ節」の原形です。

この唄りは、公益社団法人日本フナークダンス連盟「ふるりの民謡」に島根県で初めて認定された価値ある唄りです。しかし、近年は、音源や動画が確認されず、これまで伝承された唄りが途絶える危機に直面していました。

そこで、世界遺産である石見銀山に伝承されている唄り唄と唄りを記録保存し、後世に伝えたいと考え「石見銀山捲上げ節」の思案が着手しました。

令和5年(2023)7月、地元大森町の有志の皆さん、30歳代の若い世代から最高齢97歳まで15名の皆さんにご協力いただき伝承されてきた唄りを収録しました。そして、このパンフレットやDVD等を製作しました。

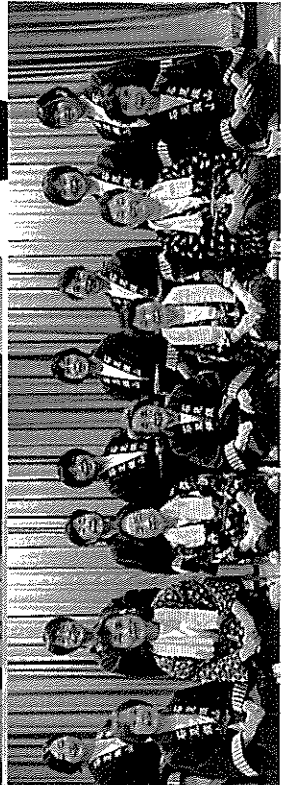
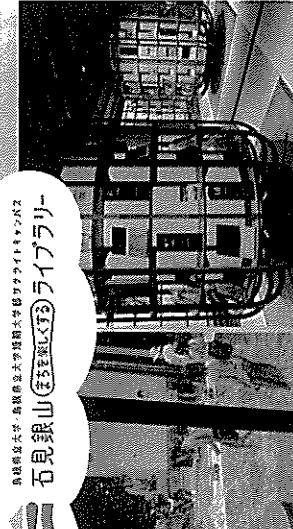
この活動をきっかけとして、地元大田市の皆さんをはじめ、来県を担う子どもたちにも聴ってもらいたい。石見銀山の歴史と文化を感じながら、ふるさと大田市に誇りと愛着をもってもらいたい。幸いです。

令和5年10月吉日

島根県立大学短期大学部長 梶谷 朱美
(保育学科教授・ダンス教育学)



島根県立大学短期大学部フナークダンスライブラリー



来。来へつなびよう!

石見銀山 捲上げ節

Iwami-ginzan makigebushi



歴史と背景

16世紀 石見銀山は、世界から熱い視線が注がれ、世界を動かしました。

高品質で大豊に採掘できる銀は、日本のみならずアジアやヨーロッパ諸国の交易を支え、東洋と西洋の経済や文化の交流を促すきっかけとなりました。

そして、今も!!

平成19年(2007)7月にユネスコ世界遺産に登録された石見銀山は、龍潭寺開光等の銀鉱山跡や大森町の街並み等が整備され多くの観光客が訪れています。また、この町に魅かれた若い世代の移住が進み、大森町は活気を取り戻すとともに子育てのしやすい町として全国から注目を集めています。

また、令和5年(2023)には、小説家、千早尚さんが石見銀山を舞台にした歴史小説「しるがねの葉」で第168回直木賞を受賞し、地元はさらに盛り上がっています。



Part1
動画で見よう!

唄と踊りの由来

石見銀山では、作業の効率をあげるために坑内唄、いわゆる労作唄を歌いました。今でも残っている坑内唄は、銀堀唄と捲上げ節の二つだけです。一番よく知られている唄は、明治20年(1887)以降、藤田組により採集された「佐藤 結」と呼ばれる鉱脈のうち35番坑から生まれた捲上げ節です。

捲上げは、鉱石の入ったタゴを立坑の底から巻き上げる作業のことです。昔は娘たち4人が、地下300メートルの立坑の底元(地底)から鉱石の入った重いタゴをロープで巻き上げました。紺の筒袖の着物に、赤い腰巻、首には豆絞りの白い手拭い、足には脚絆と藁の足絆といういでたちでした。手を休めることのできない重労働で、捲上げ節を歌いながら力を合わせて懸命に作業を行う娘たちのことがしのばれます。

「スツチヨイ スツチヨイ」というハヤシ音程は滑車ロープのきしむ音を表しています。



Part2
動画で見よう!

石見銀山に生きた女性の歴史を物語る貴重な唄と踊りです。

「唄も家しく踊りましよう!」

